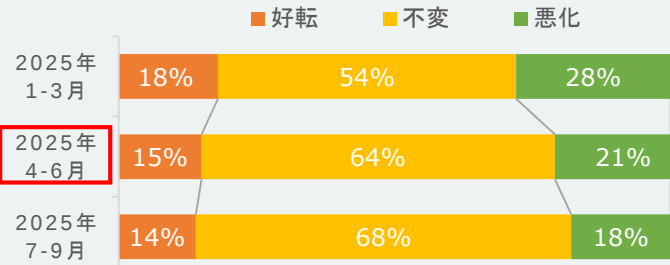


川崎商工会議所 中小企業景況調査 2025年4～6月期 調査結果

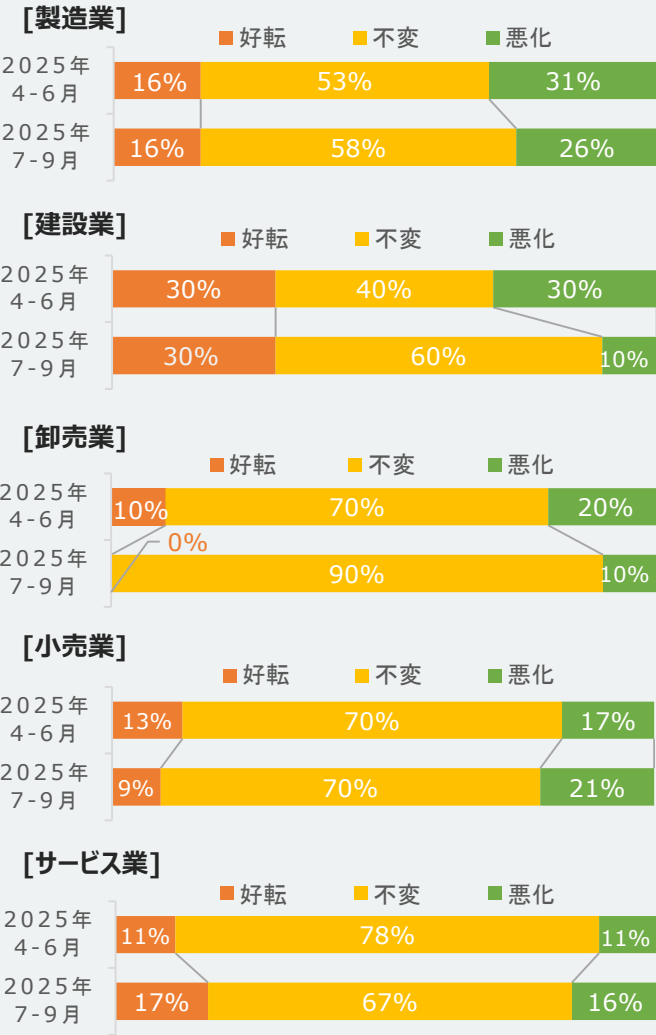
●調査対象 川崎商工会議所会員 80事業所 ●調査時期 2025年5月14日～6月4日

1 業況について

- ◆今期（4～6月）は「不変」が増加し、「好転」「悪化」はやや減少。「好転」は建設業で3割を占めたが、他業種では1割程にとどまった。「不変」は、製造業・建設業で4～5割、卸売業・小売業・サービス業では7～8割と全業種で最多となった。「悪化」は製造業および建設業で3割と高め的一方、他業種では1～2割程にとどまった。建設業では「好転」「悪化」の回答がいずれも3割あり、事業所によって業況の差があることがうかがえる。
- ◆来期（7～9月）は全体で「好転」「悪化」がさらに減少し、「不変」が増加。卸売業では「悪化」が減少したものの「好転」の回答は0、「不変」が9割を占め、先行きに対する様子見の気配が感じられる。



■業種別



2 設備投資について

[今期（2025年4月～6月）]

実施した：7.5%

実施していない：92.5%

<実施内容>

車両・運搬具	付帯設備	OA機器	その他
16%	17%	17%	50%

[来期（2025年7月～9月）]

計画している：8.8%

計画していない：91.2%

<計画内容>

建物	設備	車両・運搬具	OA機器	その他
29%	14%	14%	29%	14%

3 経営上の問題点 [複数回答]

- ◆多くの業種で「需要の停滞」や「仕入単価・材料費の上昇」が上位に挙がった。製造業・小売業では「需要の停滞」が最も多く、販売環境の厳しさがうかがえる。卸売業・サービス業では「仕入単価の上昇」が1位となり、コスト増への対応が課題となっている。
- ◆労働力に関する課題も多くの業種で挙げられ、「人件費の増加」や「従業員・技術者の確保難」が上位に挙がっている。人材確保やコスト管理が引き続き重要な経営課題となっている。

【製造業】

1位	需要の停滞	47%
2位	原材料価格の上昇/ 製品（加工）単価の低下・上昇難	32%
3位	原材料費・人件費以外の経費の増加	21%

【建設業】

1位	熟練技術者の確保難	55%
2位	人件費の増加	36%
3位	従業員の確保難	27%

【卸売業】

1位	仕入単価の上昇	50%
2位	需要の停滞/人件費以外の経費の増加	30%
3位	新規参入業者の増加/人件費の増加/販売単価の低下・上昇難/代金回収の悪化/従業員の確保難	10%

【小売業】

1位	需要の停滞	55%
2位	仕入単価の上昇	50%
3位	大型店・中型店の進出による競争の激化/消費者ニーズの変化への対応	23%

【サービス業】

1位	材料等仕入単価の上昇	67%
2位	人件費以外の経費の増加	44%
3位	人件費の増加/従業員の確保難	28%